

日吉台地下壕保存の会

会報

第9号

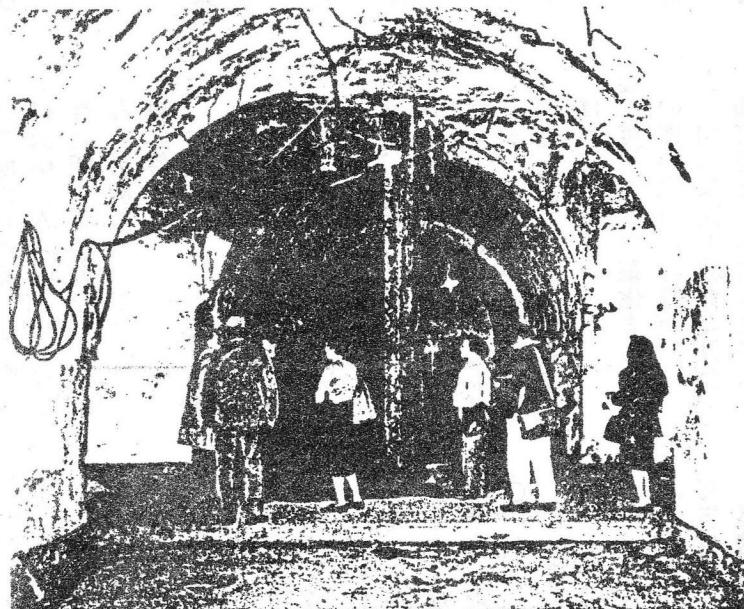
発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

〒223

横浜市港北区下田町3-15-27

TEL 045-562-1282 (寺田貞治)



自衛隊市ヶ谷駐屯地にある旧陸軍作戦司令部の地下壕

目次

- | | |
|--------------|---|
| ○新しい年のはじめに | 1 |
| ○第4回幹事会報告 | 2 |
| ○第5回幹事会報告 | 3 |
| ○第6回幹事会報告 | 4 |
| ○市への報告書に就いて | 5 |
| ○日吉台地下壕を見学して | 6 |
| ○地下壕見学会に参加して | 7 |
| ○地下壕を見学して | 7 |
| ○地下壕見学ツアー総括 | 7 |
| ○編集後記 | 8 |

頁 1 2 3 4 5 6 7 7 7 8

新しい年のはじめに

会長 永戸多喜雄

日吉台地下壕保存の会は、この4月に設立二周年を迎えようとしています。この会

が出来るまでは、太平洋戦争の狂気の時代が生んだ、あの巨大な地下構造物について、多くの人々の目に触れることもなく、その存在を忘却の彼方に忘れ去られようとしていました。ところが、いつも戦争と平和の問題を考えずにはいられない市民有志が、忘却を拒み、地下壕保存の会を結成して文字どおり地道な活動をはじめた結果、それまではせいぜい噂話か個人の記憶の中に封じ込められていた日吉台地下壕が、いまでは公の存在となり、より多くの人びとの関心を惹きつけています。地元である横浜市港北区の役所内には、地下壕保存をめぐるプロジェクトチームが組織され、そのチームから市への報告書を提出済みで、行政機関が何等かの動きを示す可能性も出てきました。そのような状況の中で一番重要なことは、この地下壕保存の会が、これまでの成果を踏まえて、どのように主体性のある運動を進めるかにあると思います。

もともと誰に強いられるでもなく、何かに唆されるでもなく、自らの意志で寄り集まつた有志の組織である保存の会は、人類の命運をもてあそび、何でも政治の道具や商売の種にするような人々とは無縁であり、どこまでも自らの責任で、主体性のある運動を続けたいものです。

第4回幹事会△云報生口

日時 10月17日 午後5時半

場所 藤山記念館中会議室

出席者 幹事の他、区役所職員・コンサルタントなど区のプロジェクトチームのメンバーが出席

区役所から

幹事会を始める前に「日吉台地下壕利用計画策定調査」に就いて、説明があった。

1. 自己紹介

2. 川久保氏(区職員)の挨拶

3. 横井氏(コンサルタント)

より「日吉台地下壕利用計画策定調査」の報告書に沿つて、説明があつた。

○日吉台地下壕のことは、街造りの資源調査をしている

中で出てきた。

○地権者の意向を充分考慮しなければならない。

○アメニティ資源をネットワーク化し、日吉台地下壕もそれに組み込む。

○歴史的事実を伝え、学習する場として保存・公開を考える。保存・公開にはかな

り時間がかかる。まずは記録の保存からはじめ、安全性に関する調査をして、保存・公開に持っていく。

質疑応答

Q. 谷氏：市に対してどの様に要望を出しているか。

A. 川久保氏：平成3年の予算案の中に繰り込んでもらうように要望を出している。

当面、記録の保存・パンフレットの作成などと、勝手に壕にはいれないよう柵をするよう必要としている。柵は対応できない。

Q. 茂呂氏：事業化するときの市の窓口は何処か。

A. 川久保氏：教育委員会、都市発展記念館(文書課)、観光課などであるが、観光課はかんがえられない。他の2つであるが、教育委員会は明治以前しか取り扱わないので、文書課ということになる。

Q. 茂呂氏：予算としてはどのぐらいの額を考えているか。

A. 川久保氏：ビデオと出

版物で200萬～300萬ぐらいを考えている。

補足意見

○桜井氏：保存の会から、市民に要望書を提出することも必要ではないか。

○寺田氏：他の保存会では初めから署名・請願活動をやっているが、我々の会は区役所が動いているので事情が異なるが、いずれ請願活動を考えなくてはならないかも知れない。

○川久保氏：保存・公開するにしても、管理は第3セクター方式になるのではないか。

Q. 「これより幹事会」

A. 報告事項
事務局長より1. 会員数＝299名
(10月16日現在)

2. 10月5日：区役所で、職員の川久保氏と地下壕保

3. 10月13日：日吉地区センター主催で地下壕見学会を実施した。数日で定員の30人の申込があった。

その他、海上自衛隊の二等海佐の方や、カナダから国が招いた埼玉県立蕨高等学校英語指導助手のシンシア・バラバーダという方が参加された。参加者は我々も含めて35名であった。

4. 10月15日：会報第8号発行。

5. 10月17日：4時よりプロジェクトチームの会合5時半より幹事会。

6. 11月10日：慶應生協学生委員会主催の地下壕見学会を予定。午後1時より4時まで。

7. 12月1日：陸軍参謀本部地下司令部跡見学会。土曜日午後2時、JR中央線市ヶ谷駅前集合。参加申込期限は10月31日。

初は16日に区役所内の予定であった)、4時から5時半までプロジェクトチームの会合を持つことになった。

(見学会は上記の海上自衛隊の方に依頼してある。)

(茂呂) 地下壕見学のマニフェストを作つてほしい。

議事

1. 区から市への報告書「吉台地下壕利用計画策定調査」に就いて
2. 今後の活動計画に就いて
- 調査活動：まだ調べなくてはならないことが沢山あるので、調査は続けなければならぬ。
- 見学会：12月1日、市ヶ谷の地下壕（陸軍参謀本部地下司令部跡）
- 11月10日、慶應生協学生委員会の日吉台地下壕の見学会。
- ヒアリング：旧登戸研究所の話を聞く。
- 学習会：(亀岡氏) 国防婦人会など戦時中に女性も戦争に協力し、加害者の一旦を担っていたことなどについて話を聞きたい。このような勉強会を開いてほしい。
- PR活動：地下壕見学者に配つたりするパンフレットを作成する。来年度の区のパンフレットの作成の計画に乗ることも考えられる。

日新聞「いま、キャンパス」の欄に掲載予定)

3. 会報第8号について

(中沢) 記植が多いので次回からは何人かの目を通して校正し、余裕を持って発行する。発行の作業するときは1週間ぐらい前にいつほしい。

4. 会報第9号の発行について

5. その他

○(寺田) 学習会は、小園さんには「学童疎開」「国防婦人会」の話をして頂くようお願いでみたらどうか。

亀岡さんの方で具体的に話を進めていただければ・・・と思う。

○(中沢) 2カ月に一回保存会として行事をやらないと、何をやっているのかと思われるのではないか。

○(寺田) 幹事会の忘年会または新年会をやるかどうか。(新年会をやることになった)

第5回松野車争△云報生日

日時 11月20日

午後5時半

場所 藤山記念館中会議室

報告事項

事務局長より

1. 会員数 299名

(11月19日現在)

団体会員 1組

賛助会員 4名

2. 10月18日：朝日新聞 HAMAYOU記者取材。

3. 11月2日：神奈川新聞に区から市への報告書に就いての記事が掲載。

4. 11月3日：生協東京地連平和フェスティバルで地下壕の展示と講演。

5. 11月6日：朝日新聞 HAMAYOUの欄に地下壕の紹介記事が掲載。

1. 区から市への提出書の内容について

2. 今後の活動について

○見学会・市ヶ谷の地下壕の見学会(12月1日予定)

(寺田) 14名の参加申込があつた。(この後2名取消6名追加)

○ヒアリング・登戸研究所に就いて

(小園) 法政高校の渡辺先生

7. 11月15日・TBS 「ニュースの森」取材班を案内して地下壕をビデオに収録。(放映は21日6時からのTBS「ニュースの森」でやる予定)

幹事より

(小園) 洪さんという人が、よく国会図書館に来ているので、来たときに話しあつたらどうか。李さんという人を知っているので連絡をとり、朝鮮人学校の先生との交流をして、地下壕の朝鮮人労働者のことを聞いてみたらどうか。

が、11月一杯は休み12月から学校に出られるが、年内に話を聞くのは無理である。先生も保存会と連絡を取り合って活動を進めたことであつた。

○ P.R活動・パンフレットの發行

(寺田) 早急にパンフレットの原案を考えてみんなに計つて、3月までに作成する。

○ 署名運動・陳情行動・

まず保存会として市長に陳情書を提出したらどうか。

総会に計つてからやる。

その前にパンフレットを作つておく。

3. 会報第9号の發行につい

て

12月上旬に發行。本の紹介も入れるとよい(小園)。

見学会の感想などの原稿や、

区から市への報告書などが

あるのでそれを載せれば發行できる。

4. 幹事会の新年会について

1月11日(金)5時半より、日吉本町の鮎辰。会費

5000円。幹事会も兼ねる。

4. 12月14日: 慶應生協

ニユース教職員版54号に

保存会の活動に付いて掲載

された。

3. 今後の活動について

○ 見学会・日吉台地下壕ま

たは他の地下壕の見学会

や高槻など保存会結成後ま

第6回幹事会△△報出日

議事

1. 会報第9号の發行に付い

て・・発行が予定より遅れ

ているが、1月中旬には發行したい。

2. 第3回総会の準備に付い

て

(1) 日時・・4月中に開催

する。地方選挙とぶつから

ないよう注意する

(2) 役員の候補者の人選

良い人がいたら推薦してほ

しい

(3) 議題

署名運動・陳情運動その他

の活動に付いて、あらかじめ承認と、ご協力をお願ひ

する。

(4) 進め方(1案として)

2時~3時: 日吉台地下壕

や松代の地下壕のビデオ

才を見せる。

3時~4時: 総会

4時~5時30分: 謀略秘

密基地・登戸研究所につ

いての講演

3. 今後の活動について

○ 見学会・日吉台地下壕ま

たは他の地下壕の見学会

の発行を総会までにやる。

4. その他

○ (茂呂氏) 横浜市の予算案を見たが、地下壕保存に関する予算が何處に入つてゐるか分からなかつた。また

学生が入つたとき、地下壕の水が汚されていて、地主の方から強く注意を受けた。

○ (事務局長) 予算に付いては、額が大きないので何

処かの項目に入つていても分からぬのではないか。

○ (事務局長) 予算に付いては聞いている。確かに人

数が多くて、注意が行き届かずまずかつた。今後は

20数名以下に制限しなければいけない。

○ 今後の活動の進め方に付いて・・(事務局長) 何もし

なれば保存・公開にはならないだろう。まず、保存

会として市長や市議会議長に陳情することが考えられ

る。更に幅広く署名・陳情

活動を時期を見てやる必要があるのではないか。松代

や高槻など保存会結成後ま

もなくやっているところが多い。

- 幹事会終了後、新年会。
- 保存会の活動、世界情勢、教育など、様々な話題について話がはずみ、和やかに過ごした。

市へ報告出口書面に就いて

報告書の題目は「日吉台地下壕利用計画策定調査」となっている。内容の項目は次の通りである。

I. 背景と目的

- 日吉台地下壕
- 日吉台地下壕をめぐる問題点
- 日吉台地下壕をめぐる動向

4. 本調査の目的

II. 日吉台地下壕の概要

- 各地下壕の概要
- 連合艦隊司令部地下壕
- 地下壕及び周辺の現況
- 日吉台地下壕の現況

況

- 都市計画及び土地利用規制等
- 構想
- 現況の整理
- 地下壕の内包する問題点の整理
- 構想

これらの項目の中、最後の項目の構想に就いては、次のように述べている。

日吉台地下壕の空間的、歴史的な特質を活かした活用方法として例えば、平和記念館、バイオ研究所、歴史資料館、備蓄庫などが考えられるが、それぞれ実現に当たっては多くの課題を抱えており、短期的にはそれらの実現は難しいと思われる。

最も良いのは地下壕を現況のまま保存し、人々にその存在を知つてもらい、また内部を見学してもらうことにより、かつて日本においてどのような歴史があつたか、また戦争というものがどのようなものであるかを認識してもらうことであろう。

ただし、地下壕内における事故を防ぐことがまず最優先される。そのため日吉台地下壕の整備の構想としては、次のような段階による整備が望まれる。

3. 安全性に関する調査

地下壕崩落の危険性や地上部に与える影響などを調査し、特に危険な場合、埋め戻すなどの処置を取ることも必要になつてくるであろう。

また、地下内部での事故を防ぐために、勝手に地下壕に入れないよう、入口を封鎖するなどの処置も必要であろう。

1. 日吉台地下壕に関する記録の保存

の意向を考慮すると、観光資源的な扱いはすべきでない。

さらに、第2次世界大戦そのものに対する考え方と同じように地下壕に対する考え方も各個人によつて異なるであろうから、日吉台地下壕に例えれば平和の象徴として、あるいは鎮魂の碑としてといった性格を付与することは好ましくないと思われる。あくまで事実を客観的に伝えるべきであろう。

また、日吉台地下壕が存在するもしくは存在していたことを人々に知つてもらうために、地上部に日吉台地下壕があることもしくはあつたことを記した碑や簡単な説明をつけた看板などを設置することも考えられる。

最も良いのは地下壕を現況のまま保存し、人々にその存在を知つてもらい、また内部を見学してもらうことにより、かつて日本においてどのような歴史があつたか、また戦争というものがどのようなものであるかを認識してもらうことであろう。

ただし、地下壕内における事故を防ぐことがまず最優先される。そのため日吉台地下壕の整備の構想としては、次のような段階による整備が望まれる。

3. 保存および研究対象としての公開

日吉台地下壕の歴史、建設に係わった人々や実際に使用した人々の証言、当時の状況、現在の状況など日吉台地下壕に関する記録を保存する事が最も優先されるであろう。

その方法としては、ビデオ、写真集、パンフレットなどが考えられる。

また、日吉台地下壕が存在するもしくは存在していたことを人々に知つてもらうために、地上部に日吉台地下壕があることを記した碑や簡単な説明をつけた看板などを設置することも考えられる。

また、地下内部での事故を防ぐために、勝手に地下壕に入れないよう、入口を封鎖するなどの処置も必要であろう。

部分でしかも比較的構造もしつかりしている連合艦隊司令部跡について保存し、研究対象として公開する。

観光資源的な扱いではなく、やはり歴史的な経緯を考慮して厳嵩な空間として保存を進める。

安全性については専門家による詳細な調査を実施し、定期的に検査し、もろくなつているところを補強する。

地上部の開発に際しては地下壕への影響を調査し、場合によっては開発の規制についても考へる。

また、地下壕や戦争もしくはそれらに係わることなどについて研究を進める上で必要であるならば、地下壕内部を開発する。

ただし、興味本意の入構は好ましくない。また地権者の迷惑も考へるとあまり頻繁に入構することも好ましくないことから、見学希望者の選定に配慮するとともに、見学者に対しても事前の説明会を実施するようとする。また、内部での事故を未然に防ぐため、

必ず見学に際しては案内をつけるようにする。

4 一般公開

一般公開に当たっては入口の確保、安全性の確保、権利関係の整理などいくつかの課題があると思われるが、より多くの人々に日吉台地下壕について知つてもらい、戦争や平和や、歴史など様々なことについて考える機会を提供するために、条件が整えば一般公開についても積極的に検討する。

基本的に予約制にし、定期的に見学者を案内するという方法が望ましいと思われる。また、地下壕の目的やどういう風に作られ、そしてどういう風に使われていたかを知識として正しく伝えるために、事前にオリエンテーションを実施するようとする。

例えば、シンポジューム、講演会などのイベントと組み合わせた公開も考えられるであろう。

日吉台地下壕を見学して

下田町 有吉 霞

十月十三日生憎の雨だが服装は長靴・雨具とふさわしい出で立ちで地下壕見学に参加した。先ず寺田先生の御説明

を聞いてから、いよいよ現地の入口に着いた時は一種の感概があつた。昭和二十六年に日吉に越し來たが、慶應のキヤンバス内に旧海軍司令部の巨大な地下壕が残つてゐるといふ話は聞いていて、「こんな山の方まで海軍司令部が来る様では負けても当然」などと思つていたので。。。

足元を注意して大廊下と言われる乾いたトンネル内を進み、上層部員のための色々の部屋、設備の説明を懐中電灯の光の中で受けて大戦末期の有様も覗えた。枝道にかかると足元は急に泥田のようになり、長靴はズブズブと沈んで、その上、中央部に幾つかのマントホールがあり、一行はトンネルの端を注意して進む。左

下り、井戸の取水口には以前鐘乳洞でみた奇怪な乳白色の流れが出来ていた。改めて大戦後の年月の長さを想つた。洞内で見られる2種の沢蟹とゲジゲジ、唯一の植物の菌類を見て引返すことになる。

見せて頂いたのは壕内の主要な箇所の部分と思うがどのくらいの距離を歩いたものか、結局は無駄に等しい事のため

沢山の人が犠牲者までだして作つたとは。出口の近くですべての電灯を消して1分間の黙祷をして冥福を祈り無事に現実の世界に戻つてきたが、文字どおりタイムトンネルを経験させて頂いた意義ある探索行きたつた。この催しに感謝すると共に、この戦争の生き証人のような日吉台地下壕を保存することは、戦争を生きた人々や又それを知らない若い世代の人達のためにも大切なことで、その事では地下壕は徒労では無かつたのかも知れない。

今回の参加で本当に日吉の住民になつた気がして寺田先生に厚くお礼申し上げる。平

井戸の端を注意して進む。左に穿つた小部屋や通路に折々天井から細い鍾乳石が垂れ

和の願いをこめて「戦争を語り継ぐ」はゆつくり読ませて頂く事にした。

秋森や胸の支えし地下の壕

霞

地下壕見学会へ に参加して

日吉本町 梅沢精子

先日、日吉地区センター主催の地下壕見学会に参加させ

て頂いた者です。

日吉に生まれ育ちながら、話には聞いていても実際にみる機会が無いまま今日まで来ました。(大聖院の地下壕で遊んだ事があるのですが)

終戦の時に小学校1年生、はつきりした記憶はありませんが、かまぼこ兵舎の教室で勉強したこと、その兵舎が海軍の遺産であり、その下に地下壕があり、その地下壕を今見学している。

そして、この地下壕を掘るために働かされていた朝鮮の人、その朝鮮人の子供達と遊んでいた事、先生のお話になつていた焼夷弾の事、四月十五日の空襲で焼けてしまつた実家の事、落合傘でおりた米

兵の捕虜の事、箕輪池で泳いだ事(その池の水が飲料水だとは知らず)、記憶の糸がだんだんつながってくるような貴重な体験をした一日でした。

今、自衛隊の海外派遣など、危ない話が持ち上がっている現在、戦争の記憶を消さないためにも、戦争の遺物として多くの人にもつと知つてもらう機会が出来たらと思います。

鍼乳石が出来るまで長い年月ほって置かれながら、もとの姿を残しているこの地下壕を、これから先もずっと保存できれば素晴らしい事だと思います。

保存会には是非入れて頂きたいと存じます。よろしくお願い致します。

地下壕を
見学して

日吉 森田権三郎

雨天にもかかわらず寺田先生に懇切に現地御案内に頂きました。

有難う存じます。

私は東京空襲時、旧海軍

(板橋)兵器行政本部に在り

兵器工場の監督官をし、その後押島守備隊で地下壕で執

務経験在り(最後はシベリアに3年抑留)且つ次男が慶大経済出身であるだけに非常に関心を持って見学させて頂きました。

1. 私の暫壕とは勿論比較とならぬ立派な壕で設備も立派でしたが、壕内軍務の共通的な苦難の跡が目の当たり見られ感無量。

2. 折角立派な古跡を永久保存すべく御努力の点感謝に堪えず、それに比し行政當局の経済的その他配慮極めて不十分と感じ、

3. 今後、後世にこの史跡・史実を伝えるために、更に大活動の必要性を痛感。

(残念ながら私は年金生活者で経済的支援は出来ませんが)取敢えず

① 国 県、市、当局へ史跡保存の為の助成懇願のため署名運動を提案したい。

② 慶應大学(日吉)校門や壕要所に解説版を立て、

一般の関心を高揚させては如何でしょうか。

《総括》
【参加者】 62名
宣伝は不十分と思われたが食堂前の立て看板の効果が大きかったと思われる。

また、組合員の平和への関心の高さを示していると思われる。

《アンケートの組合員の声》
【参加理由】

☆以前から、日吉の海軍の地下壕のことは聞いていたので一度、実際に見てみたか

つたから。

☆平和への願いをこめてを読

慶應生協学生委員会
《企画内容》
【日時】 11月10日 (土)
13時~16時

【内容】 初めの1時間で藤山記念館で寺田先生による地下壕の簡単な説明を聞いてもらつた後、実際に地下壕にもぐつてみる。

んで以来、実地見聞してみたかったから。

☆松代の地下壕に入つたことがあり、日吉のものも見てみたいと思ったから。

☆前から興味を持っていたので。

☆戦争について興味があつたから。

☆あることは知つていたので、いつか入つてみたかったので。

☆昔から入つてみたいと思っていた。

☆「参加しての感想」

☆予想外に荒れていなかつた。☆有意義でした。品性の低い者が参加者の中に多少いた

のが残念でした。一般応募だから仕方がないでしよう。

☆多人数すぎてうるさかつた。☆戦時中のことがよく分かり、大変参考になつた。

☆非常に良かった。日本及び慶大の歴史の重みを感じた。

☆泥がすごかつた。☆人が多すぎて雑になりすぎた。

☆「地下壕の感想」

☆今のが状態のまま保存してお

くべきだと思った。

☆聞いていたよりも荒廃はしないなかつた。戦争の傷跡は直接は見えなかつたが、これを作るためにどれほど

の命が失われたことか。

☆なんらかの形で周知してほしい。

☆日吉にせよ松代にせよ、記念碑みたいなものがあつてもよいものだが、それらが何にもないのは少しさびしいよう気がした。

☆思つたより小規模だった。あのよきな司令室から日本軍が太平洋に展開していくことを思うと胸がいたくなれる。

☆戦争・平和・日本のために戦つた人々など、いろいろ考えさせられた。

☆もつと戦時に使つていたものが残つてほしかつた。

◇人數は二〇人ぐらいにすべきだ。(人數制限の必要)

◇拡声器は絶対必要だ。

◇アンケートを書いてもらつた。

◇地下壕のつくりが想像以上にしつかりしていて、おどろいた。しかしこれをつくった。

◇「こんなものまで作つて戦争をする」ということに、

◇沖縄集未後夜記

◇後期2回行う。団体は不可。

とても腹が立つた。

☆沖縄の壕に入つたことがあ

るのですが、全く様相が違つていました。これほどの

ものをつくるにはすごい人

力が動員されたのでしょうか。

ね。七〇〇人という朝鮮人の数も納得です。でも、こんなものをつくるなきやい

けないという時点で日本の軍部は何を考えていたのだ

が、あります。どうとう年があけてしまいました。

◇今回も、地下壕見学会の感想文やご意見、アンケートの結果など、沢山の原稿を頂きました。

◇また、プロジェクトチームも関係した「日吉台地下壕利用計画策定調査」報告書が、区から市に提出され、掲載する記事が多くなり、8ページになりました。

◇「まだ、プロジェクトチームも関係した「日吉台地下壕利用計画策定調査」報告書が、区から市に提出され、掲載する記事が多くなり、8ページになりました。

◆昨日から世界は激動の時代に突入し、とうとうイラクで戦争が始まつてしましました。

◆第2次世界大戦の悪夢を見ていくようで、私達の運動の必要性が、ますます痛感されます。

細編集未後夜記

◆遅ればせながら新年おめでとうございます。

今年も宜しくお願ひ致します。